

COLORS,  
FUTURE!  
ACTIONS  
KAWASAKI 100th



Green For All  
KAWASAKI  
2024

## 多摩川は今

令和4年度

川崎市新多摩川プラン実施事業報告書

事務局:川崎市建設緑政局緑政部みどりの事業調整課

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町12-1

電話:044(200)1200

FAX:044(200)3973

E-mail:53mityo@city.kawasaki.jp

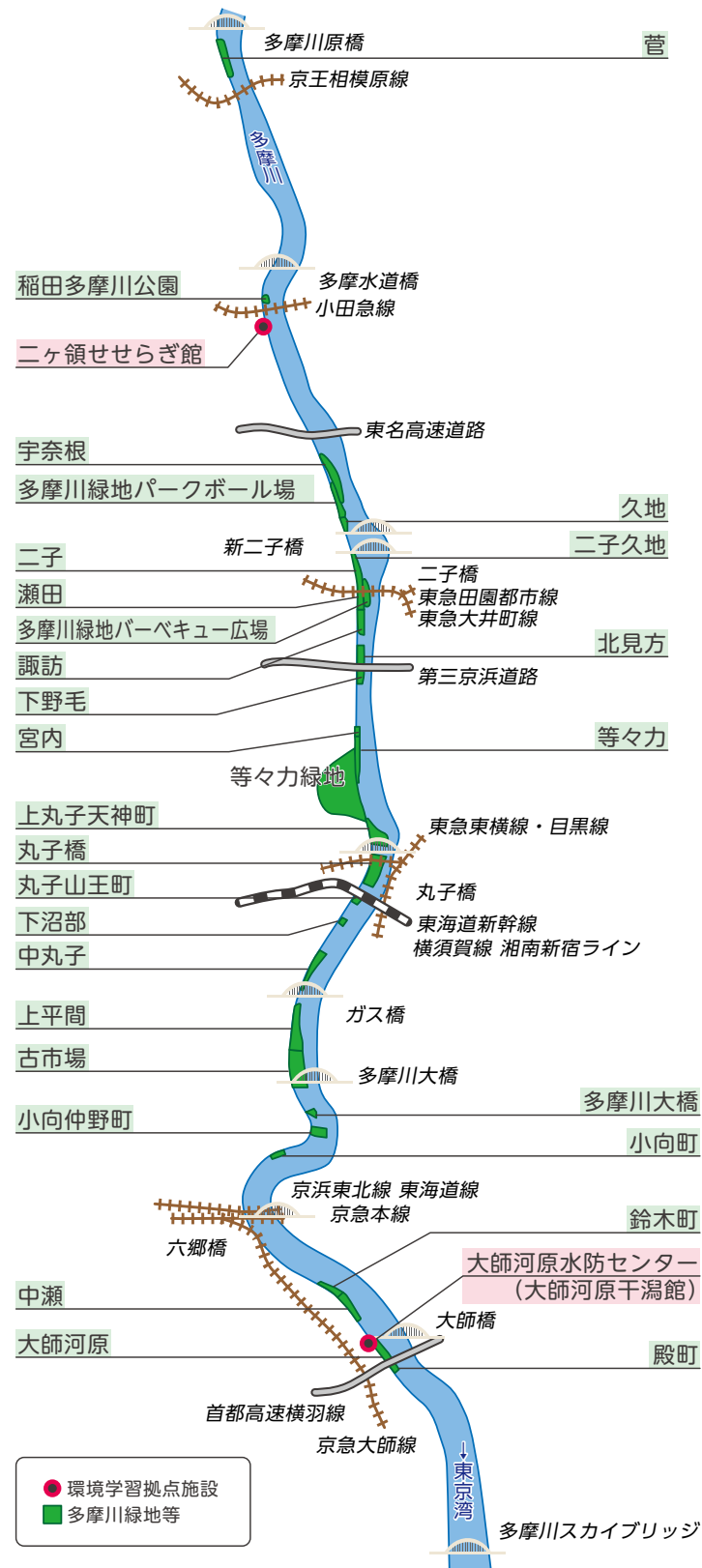


# 多摩川は今



令和4年度 川崎市新多摩川プラン実施事業報告書





●環境学習拠点施設  
■多摩川緑地等

本市の将来にわたる持続的な発展を図る上では、引き続き本市自らが積極的にSDGs達成に寄与する取組を進めていく必要があることから、「川崎市持続可能な開発目標 (SDGs) 推進方針」を定めました。

多摩川においてもSDGs達成に寄与する取組を推進し、水に関連する生態系の保護(ゴール6)、安全に利用できる普遍的アクセスの提供(ゴール11)、効果的なパートナーシップの推進(ゴール17)を図ります。

## 目次

### 新多摩川プランについて ..... 1

- #### I.自然と調和した美しい多摩川へ
- 河原風景の保全(推進施策No.1) ..... 2
  - 花と緑のある川づくりの推進(推進施策No.2)
  - 生物多様性の保全に向けた普及啓発等の推進 ..... 3 (推進施策No.6)
  - コラム(川崎市の緑地保全制度について)

- #### II.多摩川を知り 災害から市民を守る
- 治水の強化・防災性の向上(推進施策No.7) ..... 4
  - 治水の強化・防災性の向上(推進施策No.7)
  - 防災教育の推進(推進施策No.9)
  - 防災情報の発信(推進施策No.11) ..... 5

- #### III.子どもの生きる力を育む場の創造
- 「ふるさと資産・遺産」の活用(推進施策No.13) ..... 5
  - 環境学習・環境教育の推進(推進施策No.15) ..... 6
  - コラム(多摩川スピードウェイ跡地について)
  - 環境学習・環境教育の推進(推進施策No.15) ..... 7
  - 水辺の楽校の展開(推進事業No.16) ..... 8

- #### IV.多摩川とともに歩む みんなの暮らし
- アクセスの向上(推進事業No.17) ..... 9
  - かわさき多摩川ふれあいロードの安全性の向上(推進事業No.19)
  - 施設の充実(推進事業No.20)
  - 河川空間の新たな利用促進(推進事業No.22) ..... 10

- #### V.つながりを深めて魅力的な流域へ
- 多様な主体を支えるシステムづくり ..... 11 (推進事業No.27)
  - 多摩川を活用したイベントの開催(推進事業No.28)
  - 総合的な情報共有・受発信(推進事業No.29) ..... 12
  - 【コラム】多摩川スカイブリッジ ..... 13

- #### VI.巻末資料 ..... 14

多摩川の概要  
(国土交通省京浜河川事務所ホームページ) ▶

●表紙の写真について

■上段(左上から順に)  
合同干潟観察会・丸子の渡し祭り・登戸地区多目的広場スケートボード教室・とどろき水辺の楽校

■中段  
多摩川スカイブリッジ全景  
(左上:土木学会田中賞ロゴマーク)

■下段  
多摩川リバーサイド(河口から多摩川上流を望む)

## 新多摩川プランについて

### ■「多摩川は今」について

川崎市では、市民の心のふるさとと呼べる多摩川を市民共有の財産として再評価し、より豊かな河川空間の創出を目指すため、平成19年3月に「川崎市多摩川プラン」を策定し、平成28年3月に「川崎市新多摩川プラン」として改定しました。

本書は、「川崎市新多摩川プラン」に基づく取組を広く市民の皆様知ってもらうとともに、実施事業を着実に進めていくため、年度ごとの実績を「多摩川は今」としてとりまとめたものです。

### ■新多摩川プランの施策体系

新多摩川プランは、多摩川プランから約10年間に变化した社会情勢や自然環境、市民のニーズをふまえて、川崎のシンボルである「ふるさとの川・多摩川」の歴史的・文化的資源、そして環境資源を最大限に活かしたにぎわいの場(憩い、遊び、学ぶ)の創出を目指しています。

基本理念に基づき5つの基本目標を設定し、基本目標に対して30の推進施策と100の実施事業を位置付けています。

基本理念		基本目標		推進施策	実施事業
100の実施事業	I	自然と調和した美しい多摩川へ	1. 河原風景の保全 2. 花と緑のある川づくりの推進 3. 水と緑のネットワーク	4. 水環境の向上 5. 多自然川づくりの推進 6. 生物多様性の保全に向けた普及啓発等の推進	100の実施事業
	II	多摩川を知り災害から市民を守る	7. 治水の強化・防災性の向上 8. 緊急河川敷道路の整備 9. 防災教育の推進	10. 河川敷を利用した防災訓練の実施 11. 防災情報の発信	
	III	子どもの生きる力を育む場の創造	12. 歴史的・文化的資源の収集・伝承 13. 「ふるさと資産・遺産」の活用	14. ニヶ領用水を活かしたまちづくりの推進 15. 環境学習・環境教育の推進 16. 水辺の楽校の展開	
	IV	多摩川とともに歩むみんなの暮らし	17. アクセスの向上 18. 施設の再配置・再整備 19. サイクリングコースの充実 20. 施設の充実 21. 管理水準の向上	22. 河川空間の新たな利用促進 23. 河川敷レジャー利用の適正化 24. 自然エネルギーの利用 25. ホームレスの自立支援策の推進	
	V	つながりを深めて魅力的な流域へ	26. 流域自治体等との協働・推進 27. 多様な主体を支えるシステムづくり	28. 多摩川を活用したイベントの開催 29. 総合的な情報共有・受発信 30. 市民参加の川づくり	

### ●令和4年度の多摩川プラン事業について

新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、NPO法人との環境学習や各種イベントなどが開催され、徐々にコロナ禍以前の多摩川の活気を取り戻しつつあります。登戸地区では、多摩川河川敷の新たな利活用を進めるため、各種イベントでの活用に加え、バスケットボールやスケートボードなど、さまざまなスポーツでの利用ができるコンクリート舗装の広場を整備し、多くの利用者により賑わいを見せています。また、引き続きかわさき多摩川ふれあいロードの拡幅を行うなど、多摩川の利便性を高めるための取組を進めました。

# I. 自然と調和した美しい多摩川へ

都市における貴重な水と緑のオープンスペースである多摩川は、都市景観を形作る主たる要素であります。そんな多摩川を市民の記憶に残る風景となるよう、より自然豊かな多摩川の再生を推進しています。

## ① 河原風景の保全(推進施策 No.1)

### ○多摩川美化活動の推進

地域の景観と調和した河原の風景を保全するため、毎年6月に多摩川河川敷において多摩川美化活動を実施しています。

令和4年6月5日(日)に実施した第43回多摩川美化活動では、地域で活動されている様々な団体や企業、子ども会やボーイスカウト、ガールスカウト、少年・少女スポーツチームなど、幅広い年齢層の方々が参加し、河川敷のごみを拾いました。

中央会場(川崎市:中瀬河川敷)では、国土交通省京浜河川事務所長及び川崎市長をはじめ、地域で活動されている様々な団体や企業の方々とともに美化活動を行いました。



### 【実施結果】

- 参加人数:9,807人
- 参加団体:153団体
- ごみの量:4.42トン

川崎 (中瀬河川敷)	幸 (古市場陸上競技場河川敷)	中原 (丸子橋河川敷)	高津・宮前 (新二子橋河川敷)	多摩・麻生 (二ヶ領宿河原堰河川敷)
25団体 1,052人	34団体 2,129人	27団体 3,179人	30団体 1,892人	37団体 1,555人

## ② 花と緑のある川づくりの推進(推進施策No.2)

### ○御幸公園における梅香事業の展開

梅香事業は、幸区の魅力であり資源である御幸公園に、植樹事業として梅林を市民と復活させるとともに、憩いの場、集いの場となり、地域コミュニティの活性化につながることを目的に実施しています。

### ○令和4年度うめかおる写真展

地域コミュニティの活性化の一環として、梅をより身近に感じてもらうことを目的とした「令和4年度うめかおる写真展」を開催しました。

令和4年度は、御幸公園で開催された観梅会の様子や、市内外各地の梅の写真など、合計115点の多彩な作品が集まりました。

### テーマ「うめかおる風景」

梅の花や果実、梅林、梅のある風景、梅にちなんだ祭りの様子など、梅に関する写真



詳しくは  
コチラ

### ●展示期間・場所

- 1、令和4年4月1日(金)～4月26日(火)  
幸区役所1階 ロビーハナミズキ
- 2、令和4年5月9日(月)～5月20日(金)  
日吉出張所1階 タウンホールやまがき



幸区長賞受賞作品「春の賑わい」



展示会の様子

## ③ 生物多様性の保全に向けた普及啓発等の推進(推進施策No.6)

### ○身近な生き物観察教材の作成・配布

多摩川は、多種多様な生物の生育・生息空間として、豊かな生態系の成立や生物多様性の保全の維持に大きな役割を果たしています。生物による賑わい豊かな河川を目指し、まず、地域や市民が一体となって多摩川流域の生物の生育・生息の実態を学び、生物多様性の保全に向けた普及啓発に取り組む必要があります。

川崎市ではこれまで、学校における環境教育・学習の推進のため、小学校4年生と中学校1年生を対象に、環境副読本を作成し配布していました。GIGAスクール構想により、全市立小学校及び中学校で1人1台の端末が整備されたことから、令和4年度は、小学校・中学校それぞれ全学年が環境副読本をGIGA端末で見ることができるよう、環境副読本の電子化を実施しました。

環境副読本は、多摩川の生き物に焦点を当てた自然共生の考え方、公害の克服に向け進められた水保全の取組等、環境に関する川崎市での取組や事例を多く掲載しています。また、動画を多用し、子どもたちの興味を引く内容となっています。



環境副読本の抜粋(左:小学校用、右:中学校用)

環境副読本について  
詳細はコチラ



## ■コラム(川崎市の緑地保全制度について)

### ○川崎市の緑地保全制度

川崎市では、『緑の基本計画』における重要な取り組みとして緑地保全施策を進めています。令和5年3月末では、法に基づく『特別緑地保全地区』、緑の条例に基づく『緑の保全地域』、『保存樹林』、要綱に基づく『緑地保全協定』・『ふれあいの森』の施策により、約253haの緑地等が保全されています。今後も、多摩丘陵と多摩川崖線の緑を守り育て、次世代へ継承していくために、樹林地を所有する方々の御理解と御協力をいただきながら、緑地保全等の取り組みに努めます。

### ○緑の基本計画

川崎市では、平成7年に策定した『緑の基本計画』を平成20年に改定し、施策を推進しましたが、社会情勢の変化を踏まえ、平成30年3月に改定を行いました。

『緑の基本計画』は多様な緑が市民をつなぐ地球環境都市かわさきへを基本理念としており、緑の保全及び緑化の推進に関する施策を総合的に進める計画です。

緑地保全制度の詳細については  
コチラ



川崎市の緑地保全施策概念

川崎市緑の基本計画については  
コチラ



緑地保全施策の状況

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川ともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川ともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ

## Ⅱ.多摩川を知り 災害から市民を守る

全国的な水害の発生を踏まえ、防災に関する情報の必要性を再認識し、市民の防災教育を推進するとともに、災害時に迅速に対応できるよう河川敷を利用した防災訓練を推進しています。また、国と連携し、市街地の安全を守るため堤防等の整備を促進しています。

### ① 治水の強化・防災性の向上(推進施策No.7)

#### ○多摩川水系河川整備計画(国)

『多摩川水系河川整備計画』とは、多摩川の自然の脅威から人々の生活を守るとともに、かけがえのない自然の恵みを楽しみ、次世代に継承するなど、河川の総合的な保全と利用を図ることを目的に国土交通省により策定されたものです。

多摩川水系河川整備計画では、戦後最大規模の洪水(昭和49年9月洪水)を安全に流すことを治水目標としています。治水に関する5つの対策を設定し、その達成に向け様々な取り組みを実施しています。

#### ○多摩川緊急治水対策プロジェクト

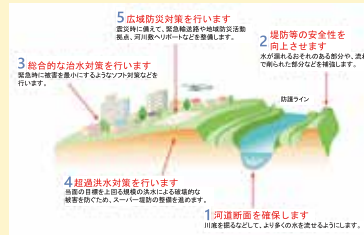
●令和元年度の東日本台風により甚大な被害が発生した多摩川において、国・都・県・市区が連携し、『多摩川緊急治水対策プロジェクト』を進めています。以下の施策を実施することで「社会経済被害の最小化」を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

●令和4年度は、流れが堤防に当たる部分(水衝部)の対策を推進するとともに、令和元年度東日本台風と同規模の洪水に対して、多摩川からの氾濫を防止するための河道掘削を実施しており、引き続き河道掘削、築堤、水衝部対策について検討していきます。



出典:京浜河川事務所ホームページを参考に作成



詳しくは  
コチラ



### ④ 防災情報の発信(推進施策No.11)

#### ○洪水ハザードマップの改訂・周知

洪水ハザードマップは、河川が氾濫した場合に、浸水が想定される範囲とその程度、及び地域の避難場所を示した地図です。災害基本法の改正などにより、記載内容の一部(避難情報、避難所の避難階など)を変更しています。

各区毎に作成しており、各区役所等における窓口配布、市ホームページへの掲載、防災アプリ等による周知のほか、ぼうさい出前講座等により浸水想定に応じた避難行動のとり方等の啓発を実施しました。

詳しくは  
コチラ



「川崎市ぼうさい出前講座  
@オンライン」配信動画一覧



## Ⅲ.子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川は、都市にある貴重な環境資源であるとともに、古くから市民生活と深く関わりがあり歴史や文化を築いてきました。多摩川での体験や環境学習などを通じて、知識や経験を伝承するため、子ども達の豊かな心と身体の育成を目指します。

### ① 「ふるさと資産・遺産」の活用(推進事業No.13)

#### ○「渡しの復活」事業の推進

神奈川県、東京都の間を流れる多摩川には、対岸に渡る手段としての渡し場がかつて70か所以上存在したといわれています。そのうち、川崎側には20か所以上が確認され、その跡の碑が市民・行政の協働で設置されています。「丸子の渡し」もそのひとつであり、江戸時代には中原街道で多摩川を渡る際、江戸への玄関口として重要な役割を果たしてきました。

このため、丸子の渡しが生活に直結していた人々の足跡を後世に伝承すべく丸子の渡し祭りを開催しました。渡し舟乗船体験を通じて中原街道往還の歴史や文化を改めて認識し、丸子の渡し復活に向けての活動の広がりを継続させていくことが重要となっています。

- 1 開催日 令和4年10月2日(日)
- 2 場所 丸子橋第一広場

- 3 人数 両岸で2,000人程度(渡し舟体験には両岸で620人が参加)

- 4 催事
  - ・渡し舟乗船体験
  - ・(川崎市側)「多摩川寄席」お囃子・大道芸・講談、竹灯り・キャンドルジャズコンサート
  - ・(大田区側)多摩川ミニ水族館

※多摩川で和むe体験を同時開催  
(eボート体験、走り方教室、サッカー教室等)



渡し舟乗船体験

### ③ 防災教育の推進(推進施策No.9)

#### ○多摩川の拠点となる施設を活用した防災の啓発活動の検討

二ヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターの多摩川の拠点施設で、環境学習等の受入時や来館者に向けて、展示資料を活かした河川防災に関する普及啓発を図りました。さらに、大師河原水防センターにおいては、「防災ミニフェスタ」を開催し、市民団体、企業と連携し、ロープワークや災害食の作り方などの体験型防災イベントによる啓発活動を実施しました。

#### ○水辺の安全事業(水辺の楽校)

ライフジャケットの着用方法や、万が一川で流された場合の対処方法と救助方法を学ぶ講習を実施しました。



防災ミニフェスタ



水辺の楽校における安全講習

### ② 治水の強化・防災性の向上(推進施策No.7)

#### ○五反田川放水路整備事業による治水対策の推進

平瀬川と五反田川下流の二ヶ領本川の計画高水流量の負担を軽減させるために、五反田川の洪水全量を地下トンネル経由で多摩川へ直接放流することにより、分流部下流域の洪水被害を軽減する「五反田川放水路整備事業」を推進しています。

令和2年6月からは、近年の豪雨災害の発生状況を考慮し、一部完成している施設について貯留式で運用を開始することにより、分流部下流域の浸水被害の軽減に寄与しています。

令和4年度は、管理棟建築工事が完成し、分流部及び放流部の設備工事、外構工事を引き続き実施しています。



五反田川放水路 水理模式縦断面



詳しくは  
コチラ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながり流域を深めて  
魅力的な流域へ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながり流域を深めて  
魅力的な流域へ

## Ⅲ.子どもの生きる力を育む場の創造

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り災害から市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川ともに歩みみんなの暮らし

つながり流域へ魅力的な流れ

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り災害から市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川ともに歩みみんなの暮らし

つながり流域へ魅力的な流れ

### ○多摩川やその周辺の資産や産業遺産を活かすことなど、自主的なまちづくりの支援

多摩川流域には、身近に触れることのできる自然資源、歴史文化的資源が点在しています。子どもたちが、普段から遊びの中で多摩川の魅力に触れ、その成り立ちや自然環境などをおのずから学ぶことは、自分たちの地域に誇りを持つまちづくりにも繋がります。

本市では、多摩川に関する地域資源を最大限に活かしてもらうよう、遊び場や歴史、生き物の知識など多摩川を身近に感じ、親しんでもらうため情報をコンパクトにまとめたリーフレット「多摩川であそぼう！かわさき今昔あそびマップ」を作成・配布しています。令和4年度も情報の更新を行った上で、多摩川の拠点施設であるニヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターなどで配布し、地域資源の情報発信を行いました。

詳しくは  
コチラ▶



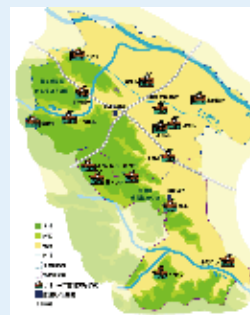
リーフレット「多摩川であそぼう！かわさき今昔あそびマップ」(抜粋)

### ② 環境学習・環境教育の推進(推進施策No.15)

#### ○学校流域プロジェクトによる学校のビオトープ等の整備や地域の交流活動の実施

多摩川の治水強化においては、築堤や護岸の整備はもとより、流域治水の視点から、森林整備による水源涵養、環境に配慮した雨水貯留浸透施設など河川を基軸としたグリーンインフラに資する取組を進めることが重要です。

本市高津区では、学校ビオトープを軸とした環境学習・地域交流・防災拠点の整備を「学校流域プロジェクト」として推進しています。学校を、将来を担う子どもたちが、身近な場所で自然や水循環の仕組み、さらには自然再生の過程を実感する場として位置づけると同時に、健全な水環境のもとに生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地としても位置づけています。そして、各種のビオトープや雨水利用施設などを計画的に整備し、学習活動、課外活動、地域との交流活動等に活用しています。令和4年度は、学校のビオトープ等を活用した環境学習支援などを区内の市立小学校(6校)で行いました。



高津区学校ビオトープマップ



流域治水ガーデンの整備

また、防災意識の醸成・生物多様性保全の理解促進に資する新規の取組として、緑ヶ丘霊園内に市内小学校児童との協働により流域治水ガーデンを整備しました。流域治水ガーデンは、斜面地に保水力のある植物を植栽したものです。アスファルトで固められた地面と異なり保水力があり、降雨時に多摩川に流れ込む雨水の量を減らす効果を発揮します。

### ■コラム(多摩川スピードウェイ跡地について)

多摩川スピードウェイは、昭和11年(1936年)に丸子橋近くの多摩川河川敷に開場された日本初の常設サーキットであり、戦前の姿をそのままに残す堤防上の観客席跡地は、長らく市民に親しまれてきました。令和3年(2021年)には、台風等の災害から地元住民を守るために、河川管理者である国土交通省による堤防改修工事に伴い観客席跡地は撤去されましたが、観客席の一部は堤防上の「かわさき多摩川ふれあいロード」沿いに設置され、新たな記念プレートとともに多摩川の歴史を後世に伝えています。



堤防上に設置された観客席跡



記念プレート

また、川崎市観光ガイドブック「川崎日和り」に多摩川スピードウェイ跡地の説明文と写真を掲載し、市内の観光資源の一つとして活用しています。

### ③ 環境学習・環境教育の推進(推進施策No.15)

#### ○水たまキッズ

平成30年度から年間を通じて水辺の楽校のイベントに参加するなど、多摩川により興味関心を引き出す機会を増やすことで環境学習と次世代を担う人材育成の推進を行っています。

年間を通して水辺の楽校や多摩川の体験活動に参加する小学校5年生の子ども達を、水たまキッズとして本市が公募で選定しています。

令和4年度は、7名の子ども達が遊び、学ぶ機会を通して、多摩川の自然環境の豊かさや保全の重要性について理解を深めました。

#### ●令和4年度の活動内容

	実施日	活動内容		実施日	活動内容
第1回	令和4年8月2日(火)	多摩川上流域(東京都福生市)で川遊び体験	第5,6,7回	令和4年12月18日(日) 令和5年1月15日(日) 令和5年2月5日(日)	多摩川の発見とまとめ
第2回	令和4年8月21日(日)	水辺の安全教室(川流れ・ペットボトルいかだ体験)			
第3回	令和4年10月15日(土)	多摩川河口でハゼ釣り教室			
第4回	令和4年11月5日(土)	多摩川河口で干潟観察会	第8回	令和5年2月11日(土)	「多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎」発表

#### ●第1回 多摩川上流域で川遊び体験

多摩川の水がきれいであり続けることの重要性や川の生物の生息域を知り、多摩川の自然環境の認識と環境保全の精神などを醸成するため、上流部である福生市において川遊び体験と生物観察を行いました。



川遊び体験の様子

#### ●第2回 水辺の安全教室

多摩川丸子橋周辺において、水辺における安全な行動を学ぶため、川流れを体験しました。

また、たくさんのペットボトルを浮かべて乗る「ペットボトルいかだ」を体験しました。



ペットボトルいかだ体験の様子

#### ●第3回 多摩川河口でハゼ釣り教室

多摩川河川敷にある大師河原水防センターにおいて、ハゼ釣り教室を実施し、釣り糸の結び方からハゼのさばき方の講習を行いました。



ハゼ釣りの様子

#### ●第4回 多摩川河口で干潟観察会

大師河原水防センターにて、多摩川の河口の生き物を理解してもらうために干潟観察会を実施しました。



干潟観察会の様子

#### ●第5～7回 多摩川の発見とまとめ

これまでの活動や多摩川について関心のあることをまとめ、多摩川についての学びを深めるとともに、シンポジウムに向けた発表練習も行いました。

#### ●第8回 「多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎」発表

これまで学んできた多摩川の魅力について、大勢の来場者の前で発表を行いました。



多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎の様子

#### ●多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎とは

新多摩川プランに基づき、多摩川流域の水辺の楽校等水辺を活かした活動を行う団体の連携強化を目的に設けています。子どもたちが水辺の楽校での活動を通じて学んだ自然や文化について、子どもの目線から多摩川の魅力を発信する場でもあります。



詳しくは  
コチラ▶

## Ⅲ.子どもの生きる力を育む場の創造

### ④ 水辺の楽校の展開(推進事業No.16)

水辺の楽校は、国土交通省が文部科学省、環境省と連携して進めているプロジェクトで、水辺をフィールドに子どもたちが川に親しむ自然体験活動を推進しています。川崎市内ではだいし・とどろき・かわさきの3校が活動をしており、川崎市はその活動のサポートをしています。

令和4年度は、それぞれの活動について、人数を制限する等、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施しました。1年間の活動の発表の場として、2月に多摩川水辺の楽校シンポジウムを実施しました。

#### ○3校合同干潟観察会

- 1 開催日  
令和4年6月12日(日)
- 2 場所  
川崎区大師河原  
水防センター
- 3 人数  
75人



干潟観察会(令和4年6月12日)

詳しくは  
コチラ▼



#### ○だいし水辺の楽校

- 1 開催回数  
12回
- 2 場所  
川崎区大師河原  
水防センター
- 3 人数  
486人



開校式(令和4年4月16日)



干潟館ウォーク(令和4年5月23日)

#### ○とどろき水辺の楽校

- 1 開催回数  
11回
- 2 場所  
中原区等々力地先河川敷
- 3 人数  
1,585人



カヌー教室(令和4年8月11日)



凧あげ(令和5年1月8日)

水辺の  
楽校の  
詳細は  
コチラ▼



#### ○かわさき水辺の楽校

- 1 開催回数  
11回
- 2 場所  
多摩区二ヶ領用水
- 3 人数  
1,037人



外遊び(令和4年5月1日)



凧作り(令和5年1月9日)

## Ⅳ.多摩川とともに歩む みんなの暮らし

誰もが利用しやすく、過ごしやすい多摩川を目指して、かわさき多摩川ふれあいロードやバーベキュー場、運動施設などの整備を行っています。



### ① アクセスの向上(推進事業No.17)

#### ○川崎市多摩川サイン計画に基づくサインの整備

新たに供用開始した多摩川スカイブリッジをわかりやすく案内するために、かわさき多摩川ふれあいロード上に路面標示を行いました。

多摩川  
スカイブリッジの  
案内標示



### ② かわさき多摩川ふれあいロードの安全性の向上(推進施策No.19)

平日には通勤・通学路として、休日にはランニングや散歩、サイクリングとたくさんの人に利用されているかわさき多摩川ふれあいロードを、さらに便利かつ安全に利用してもらうため、通路の拡幅や未整備区間の延伸、利用についての路面標示の整備等を実施しています。

#### スケジュール

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延伸整備	布田地区	橋梁・舗装整備				
	小向地区		ルート調整・測量・整備			
	戸手地区				ルート整備	
拡幅整備	港町地区				ルート整備	
	第2区間				第3区間	
路面標示整備		路面標示・マナー啓発表示の充実				

---> 国の護岸整備等と連携して実施

#### ●かわさき多摩川ふれあいロードの延伸整備

幸区の戸手4丁目北地区から下流部の未整備区間において、延伸整備に向けたルートを検討しています。

#### ●安全に通行するための拡幅整備

今年度は、上平間地区にて、幅員2mから3mに拡幅整備を実施しました。今後も、狭隘区間の拡幅を順次進めていきます。



拡幅前



拡幅後

### ③ 施設の充実(推進施策No.20)

河川敷の運動施設やマラソンコースなど、多くの利用者が安全で快適に利用していただくため、施設の補修や再整備を行っています。

#### ○簡易水洗トイレの整備

河川敷に配置されている【便槽一体型トイレ】を【簡易水洗トイレ】に更新しています。

本年度は高津区の子二・久地地区に簡易水洗トイレを1基整備しました。



更新前



更新後

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりな流域へ  
魅力的な流域へ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりな流域へ  
魅力的な流域へ

## IV.多摩川とともに歩む みんなの暮らし

### ④ 河川空間の新たな利用促進(推進事業No.22)

#### ○オープンカフェの仕組みづくりなど、新たな河川空間の利用促進に向けた検討

多摩川の丸子橋周辺河川敷は、運動やピクニック等、多くの利用者で賑わっています。一方で、当該地やその周辺の住宅街において、バーベキュー利用者によるゴミの不法投棄や騒音等の課題も生じています。

そのため民間事業者による水辺の賑わい創出などの可能性を検証し、今後の水辺活用に向けた検討の参考とするため、令和3年度から「多摩川丸子橋河川敷の新たな利活用に向けた社会実験」を実施しています。令和3年度の実験では、ゴミの投棄等の課題が改善できた一方で、新型コロナウイルス感染症等の影響により準備期間もなく、短期間の取組であったため、事業性が十分に検証できませんでした。令和4年度は、利用者が多い夏期も含めた長期間の社会実験を行い、ゴミの投棄や騒音などの迷惑行為が大幅に減少したこと、満足度の高いイベント等により地域の賑わいを創出できたことなどを確認しました。

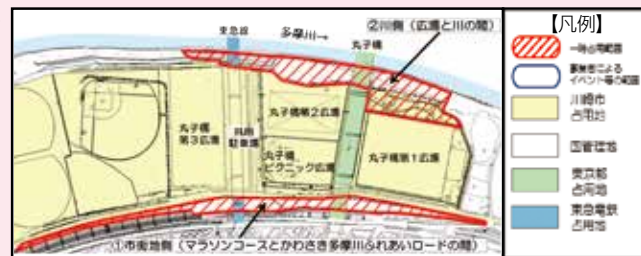
今後も引き続き社会実験として各種イベントを継続実施するとともに、令和6年春の民間活力導入による管理運営に向けて、事業者公募・選定手続きに向けた調整を行います。

#### ●多摩川丸子橋河川敷の新たな利活用に向けた社会実験

場所：中原区上丸子八幡町地先の河川敷(右図)

#### 事業候補者：

- ・多摩川緑地バーベキュー広場共同事業体
- ・一般社団法人武蔵小杉エリアマネジメント
- ・株式会社ロスフィー
- ・株式会社リベラルコーポレーション



#### ①バーベキュー(グランピング・資機材レンタルなど)

実施箇所：川側  
期間：8/6~10/30の土日祝等  
利用者：515名(84組)  
概要：機材のレンタル等を実施



#### ②キッチンカーによる市民の憩いの場の提供

実施箇所：市街地側  
期間：8/6~(継続実施中) 土日祝  
利用者数：約300名(10、11月の8日間)  
概要：飲食提供のキッチンカーをイベント開催時等に出品

#### ③各種イベント

実施箇所：第2広場、ピクニック広場  
概要：賑わい創出に向けた各種イベントを実施

#### 1 ふわふわタマランド

実施日 9/10・11 10/1・2・22・23 11/5・6  
利用者数 約3,000名/日(最大)

#### 2 移動動物園

実施日 10/2  
利用者数 約400名

#### 3 プロレス観戦・体験

実施日 10/2  
利用者数 約300名

#### 4 音楽ライブ

実施日 11/5・6  
利用者数 約1,000名/日

#### 5 映画上映

実施日 10/2  
利用者数 約100名

#### 6 クラフトビールイベント

実施日 10/8・9  
利用者数 約3,000名/日

#### 7 キッズプレイパーク

実施日 10/3・4・5  
利用者数 18名/日

#### 8 キャンプ体験

実施日 11/5・6  
利用者数 35組 188名(大人105名 子供83名)



ふわふわタマランド

移動動物園

プロレス観戦・体験

音楽ライブ

映画上映

クラフトビールイベント

## V.つながりを深めて魅力的な流域へ

流域自治体や市民、活動団体、企業、学校など多様な主体が協働・連携することで、流域全体の交流を促進し、多摩川の魅力向上に向けた取組を推進しています。また、地域の特性を活かしたイベントを開催し、市民のふるさととなる川づくりを推進しています。

### ① 多様な主体を支えるシステムづくり(推進施策No.27)

#### ○市民・企業・学校・行政のそれぞれの活動交流ができるシステムづくり

多様な主体が多摩川づくりに参画できるように、市民から行政まで、多様な主体の協働による取組を推進しています。

#### ●多摩川河川敷の新たな利活用に向けた社会実験 『登戸・多摩川 カワノバ』

- 開催日  
(夏) 令和4年8月10日(水)~9月5日(月)  
(秋) 令和4年10月14日(金)~11月30日(水)
- 開催場所  
登戸地区広場及び小田急高架下
- 実施主体  
川崎市・小田急電鉄株式会社
- 実施内容  
(1) BBQ&イベントスペースレンタル  
(2) キッチンカーなどの飲食  
(3) イベントやスクール  
・スケートボード親子体験会  
・子ども運動教室  
・かわらディスコ  
・持ち寄りランタンナイト  
・たまくおやこ広場  
・おだきゅう体験コーナー  
・ハロウィンイベント・フリーマーケット  
・BMXフラットランドスクール  
・ドッチボール講座 ほか



スケートボード親子体験会



たまくおやこ広場(9月)



キッチンカーなどの出店



たまくおやこ広場(11月)

本社会実験は、バーベキュー利用者によるゴミの不法投棄や騒音等の課題解決を図るとともに、持続可能な水辺のにぎわい創出に向けた取組として実施しました。社会実験の趣旨に賛同し、カワノバを活用する企業・団体等には、事業の実施前後に河川敷の清掃等の地域課題の解決や利用者アンケートに御協力いただき、地域ニーズの把握等に努めました。

詳しくは  
コチラ▼



### ② 多摩川を活用したイベントの開催(推進施策No.28)

#### ○マラソン等のスポーツ大会の開催

等々力陸上競技場をメイン会場に多摩沿線道路、多摩川河川敷マラソンコースを使用した「かわさき多摩川マラソン2022」を令和4年11月20日(日)に開催しました。多摩川におけるマラソン大会は、台風による河川敷被害や新型コロナウイルス感染拡大の影響により4年ぶりの開催となりました。

当日は4,012人の幅広い世代の参加者が、多摩川を楽しみながら記録に挑戦しました。



かわさき多摩川マラソン2022  
スタート時の様子

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ

# V.つながりを深めて魅力的な流域へ

## ③ 総合的な情報共有・受発信(推進施策No.29)

### ○多摩川の拠点施設を活かした情報共有・受発信

二ヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターの拠点施設から、多摩川をより身近に感じてもらうため、市民目線で集めた情報の発信を行っています。

### ○二ヶ領せせらぎ館

国土交通省が管理する二ヶ領宿河原堰管理事務所の一部を、防災活動、自然環境、歴史や文化の情報発信・環境学習の拠点として、川崎市とNPO法人多摩川エコミュージアムが協働で管理運営する施設です。

所在地：多摩区宿河原1-5-1

TEL：044-900-8386

アクセス：JR南武線・小田急線  
登戸駅下車 徒歩8分

開館日：火～日曜、祝日  
(第1、3水曜日は休館)  
10:00～16:00



二ヶ領せせらぎ館



アクセスマップ

### ○大師河原水防センター

国土交通省が管理する大師河原河川防災ステーションの一角にあり、多摩川の洪水時などの防災活動、自然環境、歴史や文化の情報発信・環境学習を行う拠点として、川崎市とNPO法人多摩川干潟ネットワークが協働で管理運営する施設です。

所在地：川崎区大師河原1-1-15

TEL：044-287-7882

アクセス：京急大師線 東門前駅下車 徒歩7分

開館日：水・木・土・日曜、祝日  
10:00～16:00



大師河原水防センター



アクセスマップ

### ○多摩川の情報誌



多摩川エコミュージアム



多摩川干潟ネットワーク

新多摩川プランについて、過去の資料も含めもっと知りたい方は、こちらのURL又はQRコードを参照ください。

URL：  
<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000020806.html>



## 【コラム】多摩川スカイブリッジ

多摩川スカイブリッジは、全国初の都道府県境を跨ぐ都市再生緊急整備地域に指定される「羽田空港南・川崎殿町・大師河原地域」のうち、川崎市殿町地区「キングスカイフロント」と羽田空港跡地地区「羽田グローバルウイングズ」をつなぐ道路として、多摩川の河口から1番目に整備され、両地区の連携を強化し、成長戦略拠点の形成を支えるインフラとして、令和4年3月12日に開通しました。

詳しくは  
コチラ▼



### ○多摩川スカイブリッジが本市初の土木学会田中賞を受賞しました

多摩川スカイブリッジが本市として初めてとなる土木学会田中賞(作品部門)を受賞しました。土木学会田中賞は、社団法人土木学会が橋梁・鋼構造工学での優れた業績に対して授与するものです。建設にあたって貴重な河口干潟が存在する生態系保持空間を改変しないなど、多摩川河口の豊かな自然環境に最大限配慮するとともに、維持管理性や景観性の両立を追い求め、国内最大の中央支間長240メートルを有しながらも、桁高を7メートルに抑え、河口の水平基調の景観に調和するスレンダーな形状を実現した国内最大の複合ラーメン橋で、他には類をみない橋梁美を実現しているほか、生態系への配慮から車両用防護柵及び高欄に道路照明を内蔵し、水面への漏れ光を低減していることなどが受賞の大きな決め手となりました。

### ●整備における環境保全手法

多摩川スカイブリッジ周辺水域には、東京湾に現存する自然干潟の一つで、環境省の「日本の重要湿地500」に選定されている多摩川河口干潟があり、豊かな自然環境が形成されています。特にヨシ原から泥干潟に続くエリアの一部は、「多摩川河川環境管理計画」における機能空間区分のうち「生態系保持空間」として設定され、貴重な生態系を保ち、自然を守るスペースとされています。

多摩川スカイブリッジの施工においては、橋脚の施工位置にあたる干潟を浚渫する必要がありました。そのため、浚渫範囲を可能な限り縮小しつつ、干潟を浸食から保護し、浚渫による影響を低減するための矢板打設を行いました。さらに、生態系の早期回復を図るため、干潟表土15cmを浚渫前に採取保管し、干潟復元の際に覆砂材として再利用しました。

このように、河口干潟などの自然環境に最大限配慮して施工を進めた橋梁工事は、他に類を見ない事例となっています。

本事業は、施工期間の全体にわたって、浚渫範囲の水質調査、地形・土質・底生生物等の調査を定期的に行い、生態系保持空間の保全状況について確認しながら施工を進めました。なお、工事完了後も事後調査計画に基づき、調査を行っており、自然環境への影響を確認しています。



多摩川スカイブリッジ位置図



多摩川スカイブリッジ全景(左上:田中賞ロゴマーク)



多摩川スカイブリッジから撮影した初日の出



多摩川スカイブリッジ銘板(右下:田中賞賞牌)

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ

自然と調和した  
美しい多摩川へ

多摩川を知り  
災害から市民を守る

子どもの生きる力を  
育む場の創造

多摩川とともに歩む  
みんなの暮らし

つながりを深めて  
魅力的な流域へ



令和4年度川崎市新多摩川プラン実施事業一覧表

Table with columns: 実施No., 推進施策, 事業No., 実施事業, 担当部署, 令和4年度の取組状況. Rows include categories like 1. 自然と調和した美しい多摩川へ, 2. 花と緑のある川づくりの推進, 3. 水と緑のネットワーク, 4. 水環境の向上.

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川とともに歩むみんなの暮らし

つながり流域を深めて魅力的な流域へ

Table with columns: 実施No., 推進施策, 事業No., 実施事業, 担当部署, 令和4年度の取組状況. Rows include categories like II. 多摩川を知り災害から市民を守る, III. 子どもの生きる力を育む場の想像.

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川とともに歩むみんなの暮らし

つながり流域を深めて魅力的な流域へ

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り災害から市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川ともに歩むみんなの暮らし

つながりな流域へ

Table with 5 columns: 課題No., 推進施策, 課題No., 実施事業, 担当部署, 令和4年度の取組状況. Contains detailed project information for various categories like water resource utilization, environmental education, and infrastructure improvement.

Table with 5 columns: 課題No., 推進施策, 課題No., 実施事業, 担当部署, 令和4年度の取組状況. Contains detailed project information for categories like river space utilization, home-based support, and multi-stakeholder collaboration.

自然と調和した美しい多摩川へ

多摩川を知り災害から市民を守る

子どもの生きる力を育む場の創造

多摩川ともに歩むみんなの暮らし

つながりな流域へ